

「希望郷いわて」

農業農村整備事業優良事例地区

■岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課

岩手県では、水田の大区画化による作業効率の向上と、担い手の経営規模拡大に向けた農地利用集積を一体的に進めるため、ほ場整備事業を積極的に導入しています。

ほ場整備事業を実施した地区では、労働時間の短縮により生み出された余剰労働力を活用し、新規作物の導入や、農産物の加工や産直販売等の取組が数多く展開されています。

今回は、ほ場整備事業の導入をきっかけに農業経営の多角化を実現し、その取組が高く評価された事例を紹介します。



農林水産大臣賞受賞

1 町井地区(花巻市)の事例

花巻市東和町の町井地区では、水稲を中心に野菜・雑穀・畜産を組み合わせた複合経営が展開されてきましたが、経営規模が小さく、生産性が低いため、地域農業の継続と経営安定が大きな課題になっていました。そこで、農業の生産性を高め所得確保につながる安定した農業経営を実現するため、県営ほ場整備事業を導入することになりました。

平成14年からの事業導入をきっかけに、集落営農による地域農業を目指し、平成16年に特定農業団体「町井アグリフレンド・ファーム」を設立。平成27年には法人化し、組織体制が強化されています。

町井アグリフレンド・ファームでは、農地利用集積による規

模拡大と併せ、大型機械の導入による効率的・安定的な農業経営を展開しているほか、水稲と大豆・雑穀を組み合わせたブロッコリー・ブロッコリーによる計画的な土地利用に取り組んでいます。また、新たな経営の展開として、次のような取組を行っています。

(1) 地場産米を使用した米粉パンやピザ生地を製造し、産直施設や保育園等で販売するなど、6次産業化の取組により、農産物の高付加価値化を推進。

(2) 整備された水田を活用し、田植えや稲刈りなど農業体験学習を行う都市部の中高校生を受け入れ、都市農村の交流を積極的に推進。

(3) 事業で整備した農村活性化施設を活用し、地域で収穫した米や大豆を使用して「パンづくり教室」や「味噌づくり教室」を開催するなど女性の



農業体験学習による都市農村交流



米粉パン(ご当地バーガー)の販売

活躍の場を提供し、地域活性化の取組を展開。

町井アグリフレンド・ファームでは、今後、地産地消の取組を拡大するため、レストランと産直施設の整備や、都市との交流を深めるため、農家が利用者に代わって野菜を育てる「農作物オーナー制度」の導入など、新たな取組を展望しています。

このような取組が高く評価され、全国水土里ネット主催の平成26年度農業農村整備優良地区コンクールにおいて、最高位の「農林水産大臣賞」を受賞しました。

東北農政局長賞受賞

1 黒岩第1地区

(北上市)の事例

北上市の黒岩第1地区では、基盤整備の遅れに伴い、農作業機械の大型化や担い手の育成が遅れていました。

そこで、大区画水田の整備とともに担い手への農地利用集積

を図るため、平成11年に県営ほ場整備事業を導入することになりました。



平成13年には、地域の担い手となる「黒岩第1地区生産組合」を設立。4名のオペレータが、地区内の水稲及び転作大豆の作業を受託し、現在は地区の86%の農地が集積されています。

黒岩第1地区生産組合では、水稲を中心としつつ、農業所得の増加を目指して、大豆、トマト、さといも等の多品目生産に取り組んでいます。

また、系統出荷にとどまらず、地区内の産直施設への出荷や、地域のNPO法人等と連携して

設立した、食堂兼加工施設での豆腐加工や弁当・仕出しの製造など、女性の労働力を活用しながら、6次産業化の取組を展開しています。

さらに、地域のイベントにおける農作物の販売や、農作業体験の受入などにより、地域の活性化に貢献する取組も行っています。

黒岩第1地区生産組合では、今後、農作物の需要を拡大するため、地元飲食店との契約販売の展開や、農作業の省力化や経営強化のため、隣接する黒岩第2地区で活動する営農組合との合併及び法人化など、新たな取組を展望しています。

このような生産、販売、地域活性化等への積極的な取組が高く評価され、東北農政局主催の平成26年度東北農政局土地改良事業地区営農推進功労者表彰において、「東北農政局長賞」を受賞しました。

県では引き続き、ほ場整備事業をきっかけとした農村地域の活性化に向け、農家の皆さんの取組を支援していきます。



大豆を活用した豆腐加工・販売



トマトを活用した収穫体験の実施

●このページに関するお問い合わせ

岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課 Tel 019-629-5666 Fax 019-629-5679 E-mail: AF0006@pref.iwate.jp